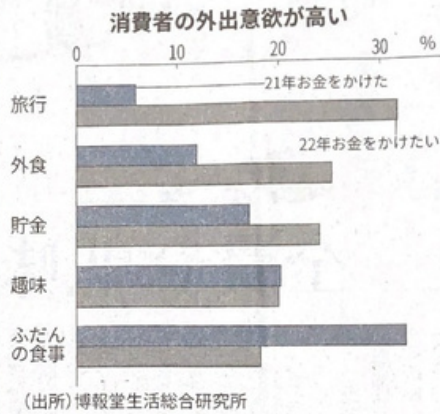


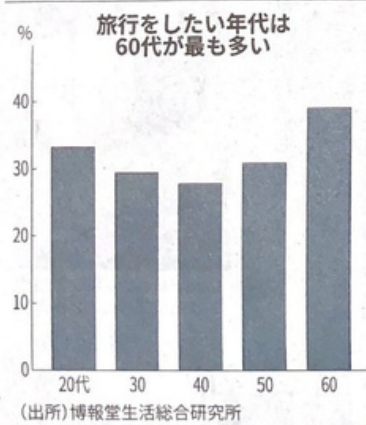
# 「貯金」も昨年以上に

## 昨秋調査、22年の消費者意向

### 博報堂生活総研



2022年にお金をかけたこと、「旅行」「外食」「貯金」。博報堂生活総合研究所が昨秋実施した調査によると、今年お金をかけたこと首位は「旅行」で、「外食」が続いた。新型コロナウイルスの感染拡大から2年、消費者の外出意欲が高まっているが、足元ではオミクロン型が急拡大しており、実現できるかは新型コロナウイルスの感染状況次第となっている。調査は、消費者の動向を探るため、全国11都市の20～69歳の男女3900人を対象にネットで実施。「来年の生活気分」として毎年まとめている



もので、今回は21年10月1～4日に実施した。調査結果によると、22年にお金をかけたいこと(25項目から複数回答は、1位「旅行」(31・7%)、2位「外食」(25・3%)、3位「貯金」(24・1%)が上位を占めた。いずれも「今年(21年)お金をかけた」を上回ったが、特に「旅行」は「21年にお金をかけた」と「22年にお金をかけたい」の差が25・8ポイント大きかった。

「貯金」した人の割合は21年に17・2%だったが、22年に貯金に回した割合は6・9ポイント上昇。貯金にお金を回したいと回答した人の割合を年齢別にみると、20代が36・2%と最多で、年代が下がるほど貯金したいとの意向が高かった。

「旅行」「外食」と回答した割合を年齢別にみると、60代が他の世代より高い一方、20代は外出時の服装や理容にお金をかける傾向が高かった。外出意欲の高さについて、同総研の近藤裕香研究員は「21年は緊急事態宣言などで外出や会食の自粛が続いた。22年はその反動で『消費マケム』がたまっているうえ、『もう取まってほしい』という希望的観測も入っている」と指摘する。

見逃せないのは「来年始めてみたい」とはなると回答する人が増えている点だ。今回の調査では70・9%と、前年に比べ微減だったが、16年調査の64・6%に比べると増えている。「ネットに常時つながれ生活時間が『高速化』している。一息ついて来年の目標をじっくり考える時間がなくなっているのではないか」(近藤研究員)。

一方、コロナの収束については、消費者は慎重な見方を強めている。3位に「貯金」がランクインしており、「世の中がコロナ前の状況にすべて元通りにはなるとは考えておらず、消費者は財布のひもを緩めきれない」と、近藤研究員は分析する。

足元では新型コロナウイルスの感染再拡大もあり、実際に消費が盛り上がるかどうかは今後のコロナの状況次第となりそうだ。